

こども施策に関する重要事項

こどもや若者には なにが大事？



こども・若者の社会参画や 意見反映に向けて

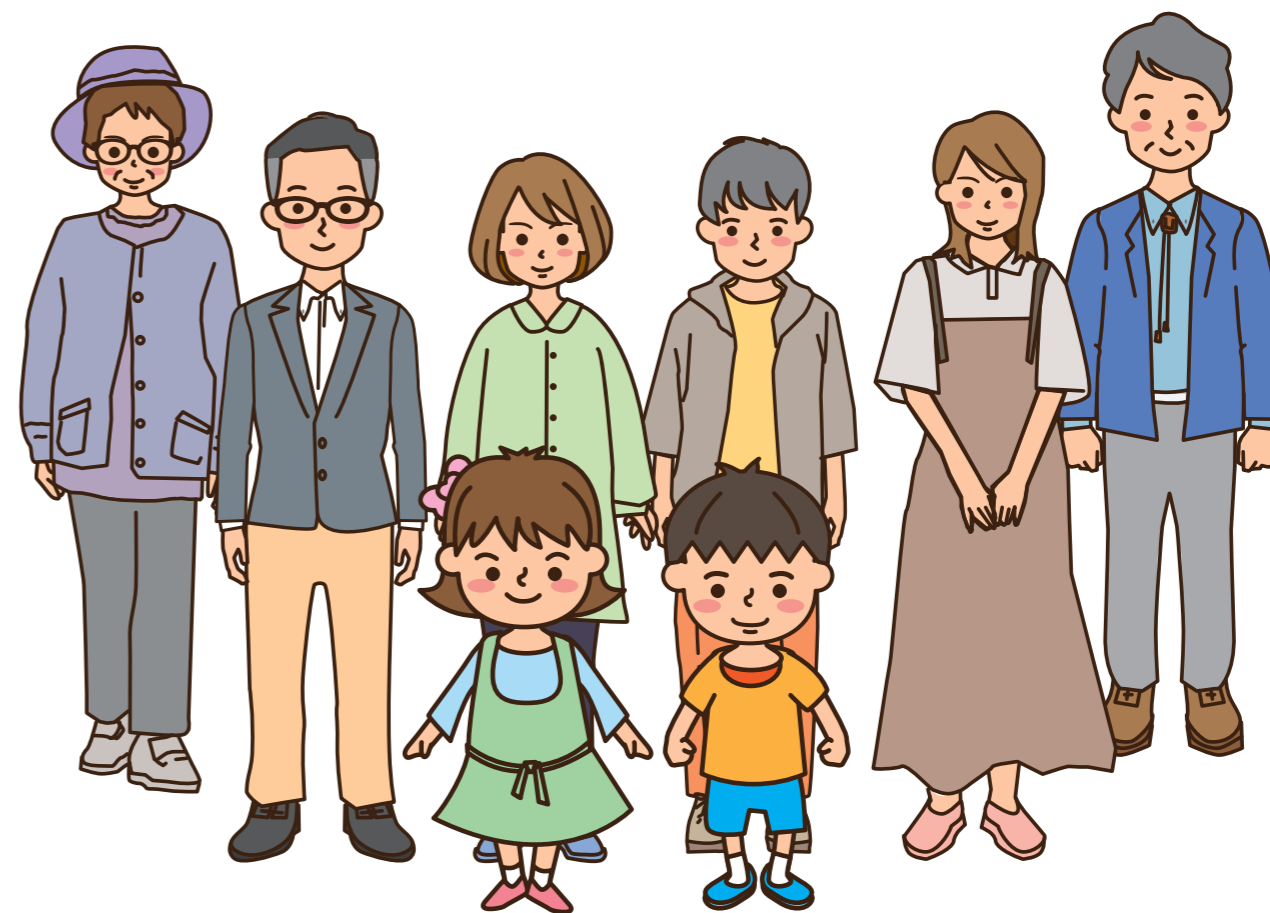
こどもや若者の意見を反映し、社会に参加していけるようにするためには、国が政策を決めるプロセスに、こどもや若者が参加する機会を増やしたり、それを支える人材を育成する等、様々な取組が大切です。具体的には、政策の効果を分析し改善することや、人材を育成すること、そして社会全体のこどもや育児に対する意識改革などを行います。



内閣総理大臣がリーダーとなり、自治体やユニセフなどの国際機関等と協力しながら、「こどもまんなか社会」を実現していきます。

こども大綱が できました！

こどもまんなか社会を目指して



こどもまんなか
こども家庭庁

ウサノビとこの冊子について



僕はウサノビ。
こどもの幸せな未来のために作られた
「こども大綱」を見ていこう！

4つの内容が書かれているよ！

- ① こども大綱ができた背景
- ② こども施策の基本的な方針
- ③ こども施策で大切なこと
- ④ こども施策を進めるために必要なこと

こども大綱が作られた目的



こどもや結婚・子育ての当事者である若者が
幸せに生きられる社会を目指します

こども大綱は「こども基本法」に基づき、幅広いこども政策の方針を定めることを目的としています。



こどもを取り巻く少子化や育児の問題、こども・若者の育成支援、こどもの貧困といった課題を一つにまとめ、こども・若者や結婚・子育てに関わる人を真ん中に据えた取組を行なっていきます。

こども大綱では全てのこども・若者が心身の健康や周りの環境に関係なく健やかに成長し、将来にわたり幸せに生活ができる（ウェルビーイング）「こどもまんなか社会」の実現を目指します。



こども大綱の前提となる 6つの方針



こども施策の基本的な方針

- ① こどもを権利や個性を尊重し最善の利益を図ります
- ② こどもや子育てに関わる人と対話しながら進めます
- ③ ライフステージに応じて適切にサポートします
- ④ 全てのこどもが幸せに成長できるよう環境を整えます
- ⑤ 若い人の生活を安定させ、子育てに希望を持てるようにします
- ⑥ 政府機関や地方自治体、民間団体などとの連携を重視します



こども施策に関する 重要事項



ライフステージを通して重要なこと

「こどもまんなか社会」の実現には

全てのライフステージで共通する課題
 特定のライフステージに応じた課題
 子育てをする人の支援に関する課題

が必要です。

例えば、こどもの権利について多くの人に知ってもらうことや、こどもが様々な体験や活躍ができる機会があること、こどもの貧困の解消やこどもへの虐待の防止、自殺や犯罪からこどもを守ることは全てのライフステージで大切です。

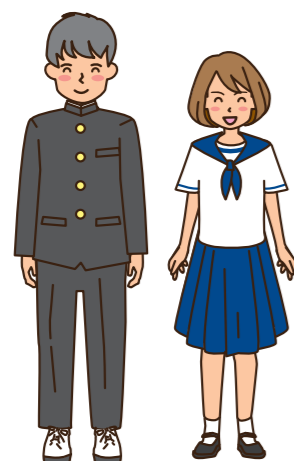


こども大綱には 何が書いてあるの？



誕生前から青年期にかけて 重要なこと

こどもの誕生前から幼児の時期までは、保健と医療を受け続けられることや、安心・安全でこどもが成長でき、遊びも充実している環境が大事です。



小中学生の時期には、良質な教育や安心できる居場所があること、いじめや、体罰・不適切な指導を事前に防ぐことなどが重要です。

高校生以降の時期には、誰でも質の高い高等教育を受けられるようにすることや、就職や結婚ができるようサポートすることに加え、若者や家族が抱える悩みへの相談体制を整えることが大切です。

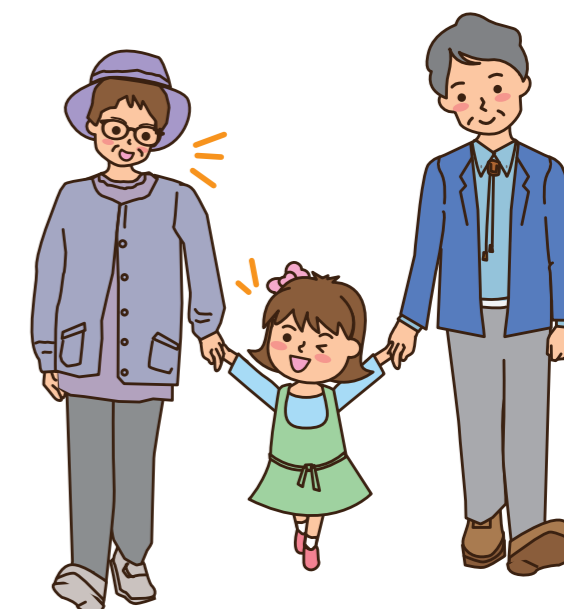


こども大綱には 何が書いてあるの？



子育て当事者の支援において 重要なこと

現代社会では、核家族化や地域社会の希薄化などの影響で、子育てに関する助言や支援を得ることが難しくなっています。そんな中でも、子育て世代が経済的な事情や仕事との両立で悩むことなく、健康でゆとりを持ってこどもに向き合えるようにすることが、こどもの成長には必要です。



こうした状況を踏まえ、子育てや教育に関する経済的な負担を減らしたり、地域や家庭での子育てと教育をサポートします。また、男性が自ら家事育児に参加することを促進したり、ひとり親家庭への支援も行います。